

宮城県（東北感染制御ネットワーク：旧宮城感染コントロール研究会） における多剤耐性緑膿菌 MDRP への取り組み・対応

1. 取り組みの経緯

- 1999年11月：「宮城感染コントロール研究会」が発足し、「情報の共有化」，「感染対策の協力・共同実施」，「感染対策の支援」をアクションプランとして、さまざまな感染制御ネットワーク活動が開始。
- 2002年：ネットワーク参加医療施設の感染対策担当者より「多剤耐性緑膿菌」検出症例についての相談やコンサルテーションが見受けられるようになってきていた。
- 2003年7月：ネットワーク活動（ワーキンググループ）の一環として現状把握のための MDRP 検出状況に関するアンケート調査の実施。
 - アンケート調査実施の理由
 - ① ネットワークで、これまでも MDRP に関する相談があったこと。
 - ② 国立病院機構仙台医療センター（旧国立仙台病院）の三木先生より、自施設の事例解析に基づき、MDRP の動向に注意する必要性が高いことの指摘。
 - * アンケート依頼対象施設は宮城県内の 19 医療施設および 1 検査センターの計 20 施設（内、定点医療施設 8 施設）
- 同 9 月：MDRP 調査ワーキンググループの立ち上げと MDRP の収集に着手。同 12 月に開催された宮城感染コントロール研究会第 7 回講習会にてアンケート結果の報告、ワーキンググループの目的 [結果を解析し、地域ぐるみの感染対策を旨とする] の紹介。
- 2004年1月：第 3 回東北耐性菌研究会で「多剤耐性緑膿菌」をテーマとして、現状の報告と具体的な対応などに関する報告を通じ、啓発を行った。
 - 同 7 月：宮城感染コントロール研究会第 8 回講習会にて MDRP 調査ワーキンググループ中間報告を通じての感染拡大防止の啓発を行った。
- 2005年2月：東北感染制御ネットワーク研究会（旧宮城感染コントロール研究会第 2 回講習会にて「MDRP への対応」の講義を通じて感染拡大防止の啓発を行った。
- 2006年7月：「緑膿菌」をテーマに宮城県臨床細菌研究会を開催。情報の共有化および感染防止策の具体的対応などを討議。
 - 同 8 月：多剤耐性菌対応ワーキンググループ会議（現状の解析と今後の対応協議）開催。
 - 同 10 月：「MDRP を含む緑膿菌の基礎から院内感染対策まで」をテーマに第 1 2 回東北院内感染対策研究会を開催予定。

2. 多剤耐性菌対応ワーキンググループ会議報告

1) 現状の報告(年度推移)

- ・2003年－2006年で経過が判明している施設(13施設)からの報告

年 度	2003年	2004年	2005年	2006年1-6月
MDRP 検出例	200	235	186	72

- ・13施設中 2施設 → 2003年がピークで以下減少
6施設 → 2004年がピークで以下減少
5施設 → 2005年がピークで以下減少
- ・検体の多くは尿検体(特に尿道カテーテル留置例), 一部喀痰検体, その他検体
- ・定着例が多い

2) 成果に結びついた具体的な対応

- ・標準予防策・接触伝播予防対策の徹底
- ・尿路感染防止対策: 尿道留置カテーテル管理などのマニュアル改定
- ・環境整備(特に汚物処理室)
- ・職員への教育啓発
- ・抗菌薬適正使用

3. 今後の対応

1) MDRP 対応事例集(具体的な対応例、マニュアルなど)の作成

- ・各施設での具体的な取り組みや改定したマニュアル, その要点などを事例集としてまとめ, ネットワーク参加施設に配布(情報の共有化)

2) 地域モニタリングシステムの構築

- ・MDRPの継続的なモニタリング(リアルタイム)
- ・他の薬剤耐性菌(ESBLsなど)も含めたモニタリングシステムの構築

3) 地域コアラボによる菌株の収集・解析および情報のフィードバック

- ・MDRPの菌株の収集、遺伝解析、情報のフィードバック

4) 薬剤耐性菌に関する相談窓口の設置

- ・ネットワーク内参加施設の相談受け付け